

令和元年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

(敬称略)

No	学校名	個人団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
1	鶴見高等学校	個人	とみおか ひろき 富岡 浩輝	3	体操競技に打ち込み、3年間優れた成績を残した。2年次には怪我で練習ができない期間もあったが、その時々には自分ができる最善のを行った結果、3年次にも全国高校総合体育大会への出場を果たした。 入学以来、困難を乗り越え挑戦し続ける姿勢、学校生活と競技生活を両立し、目標に向けて努力する姿は、他の生徒の模範となった。
2		個人	いとう ゆきの 伊藤 幸乃	3	公益財団法人明るい選挙推進協会及び都道府県選挙管理委員会連合会による「明るい選挙啓発ポスターコンクール」において、5,590名の参加があった中、文部科学大臣・総務大臣賞を受賞した。 また、平成30年度デザインパテントコンテストで傘用柄を製作して優秀賞を受賞し、結果として、制作したものが意匠権、実用新案権を取得した。課題に対して地道に努力を重ね取り組む姿は、他の生徒の模範となった。
3	神奈川工業高等学校	個人	すぎおか まさゆき 杉岡 真行	3	内閣府と防災推進協議会との共催で行われた「第33回防災ポスターコンクール」において、RPGゲームをモチーフにしたポスターが佳作となった。 また、第1回ITとデザインエンジニアリングソリューションコンテストで「災害時に最新の情報を収集し、安全かつ最短ルートで避難者を避難場所へと誘導する信号機型電光掲示板」を制作し、最優秀賞を受賞した。課題に対して地道に努力を重ね取り組む姿は、他の生徒の模範となった。
4		個人	さくま みらい 佐久間 未来	4	日頃より、自らの将来を見据えて努力を積み重ね、全日制、定時制が同じカテゴリーで競う高校生ものづくりコンテスト神奈川大会において、定時制生徒として2位入賞し、関東大会に出場した。 また、日頃の授業で学んだ技術を活かし、ボランティア活動にも積極的に参加するなど様々な場所で貢献した。 授業や資格取得にも励み、優秀な成績を収め、他の生徒の模範となった。
5	横浜翠嵐高等学校	団体	科学部	-	学力向上進学重点校という学校の特色を活かすために、生徒たちが主体的に地域へ還元できることは何かを考え、「小学生対象の科学教室」というボランティア活動を4年間続けており、地域社会へ貢献した。 このような活動を契機に、科学を中心とした学習や部活動への意欲が向上し、その結果「第9回科学の甲子園神奈川県大会」での総合優勝を果たし、令和2年3月に開催される全国大会への出場が決まった。
6	横浜立野高等学校	団体	生徒会	-	6年間にわたり間門小学校と連携して行っている、月に1度のアイサツタイムや小学1年生を対象とした防犯教室を通して、地域の防犯教育に貢献した。 歴代の生徒会執行部が大切に続けてきたこれらの活動を、より主体的に行い継続することによって、間門小学校の保護者や地域住民の方々からの信頼や理解を得ており、他の生徒の模範となった。
7		個人	リチャーズ じやすみん 茉莉	3	第17回エクステンション高校生スペイン語スピーチコンテスト ALEVINES (スペイン語初学者) 部門にて、世界のジェンダー問題についてのスピーチを行い、最優秀賞を獲得した。 入学以降、スペイン語学習に常に積極的に取り組み、スピーチコンテスト以外にも、スペイン姉妹校交流への参加、スペイン語検定への挑戦など、ひたむきに語学の習得に向けて努力する姿は、他の生徒の模範となった。
8		個人	ふるこし そうま 古越 壮真	3	第17回エクステンション高校生スペイン語スピーチコンテスト ERUDITOS (スペイン語経験者) 部門にて、約1年間のコスタリカ留学の経験についてのスピーチを行い、最優秀賞を獲得した。 スピーチコンテストへの参加以外にも、スペイン語検定へ挑戦したり、校内のスペイン語劇に参加したりと、ひたむきに語学の習得に向けて努力する姿は、他の生徒の模範となった。
9		個人	いしかわ ことは 石川 琴葉	2	獨協大学外国語学部が主催している「全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」において、応募総数169名の中、対話部門2位に入賞した。 ドイツ語の習得に向けて日頃からひたむきに努力する姿は、他の生徒の模範となった。
10		個人	かねこ むつみ 金子 睦実	2	
11	横浜国際高等学校	個人	ことぶきのあ 壽 野愛	2	第37回全日本中国語スピーチコンテスト神奈川大会『朗読部門』にて最優秀賞を獲得した。 日頃より、中国語の授業に意欲的に取り組み、今回のスピーチコンテストに向けて、昼休みも練習時間にあてるなど真剣に練習に取り組んでおり、その姿は、他の生徒の模範となった。
12		個人	なわの ほのか 縄野 洸	3	令和元年度神奈川県高等学校英語スピーチコンテストの一般部門において、スマートフォン利用に年齢制限を設けるべきであるという内容のスピーチを行い、1位(県知事賞・教育長賞・部会長賞)を獲得した。さらに上位大会の『第13回関東甲信越地区高等学校英語スピーチコンテスト』の第1部にて準優勝を果たした。 海外経験がない中、その努力と発信力で結果を出した姿は、他の生徒の模範となった。
13		個人	おおにし じゅん 大西 イシュトヴァン 淳	2	令和元年度神奈川県高等学校英語スピーチコンテストの総合部門において、様々な考え方を争いの種とするのではなく、認めあうことにより、自分たちの「ローマ」を見つけなければならないという内容のスピーチを行い、1位(県知事賞・教育長賞・部会長賞)を獲得した。さらに上位大会の『第13回関東甲信越地区高等学校英語スピーチコンテスト』の第2部にて準優勝を果たした。 自身の優れた英語力を礎とし、日頃の授業において深い思考とそれを発表するスキルを身につけ、自らの海外経験をもとに世界に平和をもたらす考え方を模索しており、その姿勢は他の生徒の模範となった。

令和元年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学校名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
14	光陵高等学校	個人	にわ すずか 丹羽 涼風	1	生徒会に所属し、学校改善のために何ができるかを日頃から考えるとともに、自らの関心が強い分野のイベントに積極的に参加するなど、将来の目標実現に向けた努力を続けている。 県教育委員会主催の「かながわ人づくりコラボ」においては、保土ヶ谷養護学校生徒とのスポーツ等を通じた交流を行うことにより、共生社会の実現に繋げていくことができるのではないかという内容の発表を行い、参加者から多くの賛同を得た。
15	商工高等学校	団体	課題研究 「商品開発PROJECT」チーム	3	商品開発の授業において、これまでに取り組んだことのない「自校ブランド」の商品開発に挑み、研究・開発を重ねた結果、「食と健康」をコンセプトとしたドレッシングの商品化に成功した。 プライベート商品の開発に当たっては、社会問題に切り込むコンセプトを掲げ、高校生ながらクラウドファンディングにも挑戦した。その取組は、地域や神奈川県商業教育の発展に大きく寄与した。
16	保土ヶ谷高等学校	個人	たなか ゆうき 田中 優輝	3	小学校4年次よりボクシングジムで競技を開始し、日々練習に励んできた。高校では、1年次より各種大会で優秀な成績を収め、3年次には県大会で優勝し、インターハイや国体に出場した。 また、学校生活においても礼儀正しく、物事を冷静に見つめて判断し、クラスでも自己の役割を責任をもって遂行した。困難なことも最後まで諦めずに取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
17	旭高等学校	団体	ビリーブ (県立旭高等学校・県立三ツ境養護学校・横浜市川井地域ケアプラザ)	-	三ツ境養護学校の横浜市川井地域ケアプラザを拠点とした地域との交流活動に、平成23年度より、旭高等学校の生徒がボランティアとして参加している。「ビリーブ」と名付けたこの事業においては、部活動生徒を中心に交流を行うなど、ともに学び、ともに楽しみながら交流を続けている。 「ビリーブ」は3つの異なるコミュニティを繋げ、お互いの活動の場や他者を理解する機会を拡大したことで「ともに生きる社会の実現」に向けて、貢献している活動である。
18	三ツ境養護学校			-	
19	磯子工業高等学校	団体	建築研究部	-	高校生ものづくりコンテスト測量部門において、チーム一丸となって日々の練習に励んだ結果、県大会8連覇を達成し、その後の関東大会でも優勝、大阪府で開催された全国大会では準優勝という成績を収めた。 また、日頃より、資格取得等によって技術向上へ努力を続けており、自ら目標を掲げそれを体現する姿勢は、他の生徒の模範となった。
20	磯子高等学校	団体	空手道部	-	学校の再編統合に伴い、3年生のみのメンバーとなりながらも、高い志をもって日々の稽古に熱心に取り組み、6月に開催された第48回関東高等学校空手道大会の「男子団体組手」への出場を果たした。 また、地域の小中学校等との交流試合や学校周辺の清掃活動など、部活動による地域貢献活動に率先して取り組む姿勢は、他の部活動の模範となった。
21	釜利谷高等学校	団体	釜利谷サポートチーム	-	一般的な委員会活動や部活動の分類とは異なる、クリエイティブスクール活動を活性化するための新たな形として挑戦を続けている。 学校説明会や全公立展など、学校の教育活動を生徒の目線で紹介する活動では、学校の良さを多くの中学生に伝えた。これらの活動を通して、生徒個人の社会性を確立し、学校のイメージアップに寄与した。
22	霧が丘高等学校	個人	のむら あすか 野村 明日香	2	校外の新体操クラブで日々活動し、関東大会県予選会では2年連続で上位入賞し、本大会に出場した。また、国体の県代表選手としても2年連続で本大会に出場した。 校内でも明るく積極的に活動し、何事にも手を抜かない姿勢は、他の生徒の模範となった。
23	白山高等学校	個人	ながせ しょうま 長瀬 翔馬	2	平成31年4月、下校途中に立ち寄ったスーパーマーケットで、病気で倒れた方を発見し、容体を確認したうえで119番通報を行い、状況を的確に伝えた。また、その急病人が救急車で搬送されるのを全員で見送った。見ず知らずの人に対して勇気を奮って行ったこの行動は、他の生徒の模範となった。
24		個人	おがわ けんせい 小川 堅誠	2	
25		個人	ほんま ごう 本間 豪	2	
26		個人	まんぼ いっぺい 満保 一平	2	
27		個人	みやはら こうた 宮原 昂太	2	
28		個人	やしる けんご 八代 健吾	2	
29		個人	ささま ももこ 笹間 桃子	3	
30		個人	たむら しょうた 田村 将大	3	
31		個人	たかはし ゆうと 高橋 優斗	3	
32		個人	のざわ かいと 野澤 海斗	3	
33	個人	はぎわら まい 萩原 麻衣	3		
34	元石川高等学校	団体	More	-	Moreは好きなこと、得意なこと社会貢献するという理念のもと、誰でもが主体的に社会貢献できる仕組みである。 歌やダンスが好きな生徒は神奈川県警と協力して、振込め詐欺撲滅のオリジナルソングを制作し地域で啓発イベントに参加したり、デザインが好きな生徒はカンコー学生服と連携し制服にプラスできるおしゃれなウェアを開発し売り上げを寄付するなど13の事業、50人を超える生徒が主体的に参加している。 企業、大学、地域と連携し、社会が一体となって協働する教育の形を体現し、周囲の生徒の模範となった。

令和元年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学 校 名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
35		団体	女子バレー部	-	日々の練習に励むとともに、地域と学校の環境美化に貢献するため、年間を通して、通学路のごみ拾いなどの清掃活動を自主的に行っている。 部の伝統として長年継続してきたこの活動は地域の方々にも認められており、他の生徒の模範となった。
36	上矢部高等学校	個人	あべ せれな 阿部 世麗奈	2	美術科の授業において着物のデザイン画を制作し、2020染織意匠・図案コンペで全国1位に相当する金賞を受賞した。所属する美術部でも、絵画制作を中心に意欲的に活動に取り組んでおり、第31回横浜中地区交通安全高校生会議ポスターコンクールに出品して優秀賞を受賞した。 学校での活動だけでなくとどまらず、友人とともに自主的に校外で作品展を開催するなど、意欲と向上心にあふれた姿勢は他の生徒の模範となった。
37		団体	吹奏楽部	-	継続的に地域の福祉施設で演奏会を行い、施設の方々に音楽の楽しみを感じていただくとともに、その他の施設においても積極的に演奏を行った。 地域の方に喜んでいただけるよう研鑽を積んで、学校の教育目標の一つである「豊かな感性や社会性を身に付け、思いやりの心を養う」ことを実践した。
38	横浜栄高等学校	団体	チアリーディング部	-	地域のイベントでお祝いの言葉と演技の披露を行っており、地域の方々にも親しみを持って迎えられている。 また、昨年度から、地元の横浜市立本郷特別支援学校高等部と、演技で使うポンポンを特別支援学校分も用意し、ダンスやチアリーディングの演技を共に披露するなどの有意義な交流を続けており、地域社会へ貢献した。
39	松陽高等学校	団体	科学部	-	文化祭において、液体窒素による公開実験を行い、多くの来場者に科学の素晴らしさを広めた。また、近隣の阿久和田地区センターの催し物として、エアバズーカとプラ板の作成のボランティアを行うなど、積極的に活動を行った。 部員8名と少人数ながら、計画的・継続的に活発な活動を行い、科学の素晴らしさを探求するとともに地域や年少者に伝えた。
40	横浜修悠館高等学校	団体	書道部	-	昨年活動を復活し、活動時間も短いながら、数少ない部員数で県総合文化祭高等学校書道展入賞、定通芸術祭書道部門最優秀賞など数々の書道展に果敢にチャレンジし、入賞を果たした。また、文化祭では高等工科大学と合同で書道パフォーマンスを行い、1,500名の来校者に感動を与えた。 通信制高校において、自己の課題を克服するという新たな取組を行い、地域社会へ文化的に大きく貢献した。
41		個人	ふじい かずき 藤井 和樹	2	平成31年4月、下校時に弟からの連絡を受け、自宅付近の公園で遊具から落下して泣いている見ず知らずの男児に対して、声をかけ安心させながら応急手当を行い、背中におぶって男児の自宅まで送り届け、保護者に通院を促した。 また、学校では生徒会長を務め、学校行事等を中心となって運営するとともに、令和元年11月に行われた県教育委員会主催の高校生版教育委員会では、副委員長を務めるなど学校を代表する活躍をしており、他の生徒の模範となった。
42		個人	やまもと ゆづき 山本 柚月	2	令和元年10月から11月にかけてタイで開催されたAFC(アジアサッカー連盟)U-19女子選手権の日本代表として、5試合中4試合に選抜出場し5得点をあげるなど、チームの優勝に貢献した。 学校生活においても、日々の学習や行事に積極的に参加し、心優しく誰に対しても公正、公平な態度で接するなど、他の生徒の模範となった。
43		個人	たかはし かずき 高橋 一輝	2	近隣の特別支援学校より、パラリンピック競技のボッチャで使用する補助器具の製作依頼を受け、ボッチャ競技の体験を行ったうえで、試作から納品までを行った。
44		個人	おおつか こうき 大塚 公輝	3	設計図がないため実物から図面を起こしたり、使用する材料についても利用者が使いやすい材料を選ぶなどの工夫を行いながら、完成までの数々の問題に立ち向かう姿勢は、他の生徒の模範となった。
45	向の岡工業高等学校	個人	やまと ゆうき 山登 夕輝	2	日々の授業に真面目に取り組むとともに、部活動ではロボット研究部を再建し、文化祭での展示を行うなど積極的に活動した。 また、パソコン利用技術検定3級や第二級陸上特殊無線技士といった資格試験に努力を重ね合格した。様々な活動に積極的に参加する姿勢は、他の生徒の模範となった。
46	生田東高等学校	団体	生徒会	-	近隣の6つの自治会、川崎市立枳形中学校からの200名を超える参加者とともに、行う防災訓練を9年間続けている。 これらの活動において、災害時における緊急対応の知識を得るとともに、近隣の自治会住民と一緒に活動することで、コミュニケーション能力を養い、地域住民と顔の見える関係を構築した。
47	麻生高等学校	団体	メディア研究部	3	近年、少年が特殊詐欺の受け子や出し子となって検挙されるケースが増加している中、平成30年9月に神奈川県警より依頼を受け、約半年間かけて特殊詐欺加担防止のためのDVD動画を制作した。 学生自らが特殊詐欺事件という社会問題について課題意識をもち、その解決に向けて主体的に社会貢献活動を行う姿勢は、他の生徒の模範となった。
48	横須賀高等学校	個人	たかはし りおん 高橋 璃音	3	三次元コンピュータグラフィックス(3DCG)やヴァーチャルリアリティ(VR)の技術を駆使し、津波や火山の噴火における災害状況の可視化ソフトウェアを開発した。さらに、開発したソフトウェアの効果について横須賀市危機管理課で報告するなど、地域の防災活動に貢献した。 自ら課題意識をもち、新たな取組や困難な課題に果敢にチャレンジする姿勢は、他の生徒の模範となった。

令和元年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学 校 名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
49	海洋科学高等学校	団体	食品系列有志	2	商品価値の低いカジキを生ハムに仕上げ、他の神奈川の食材と合わせたブリトーを考案し、地元の食材を使ったオリジナルレシピを競う「第8回ご当地うまいもん甲子園」関東甲信越大会に出場した。全国大会への出場は逃したが、新聞等にも大きく取り上げられ、地元の食材のアピールにつながった。 地元の食材をアピールするために、試行錯誤を繰り返しながら、4か月を掛けて熱心にレシピ考案に取り組んだ。
50	横須賀明光高等学校	個人	びらー あんじえろ ころなーど Vilar Angelo Coronado	3	令和元年10月に、台湾新北市主催の「国際青年フォーラム INNOVATION MAGIC 2019」に日本代表として参加し、「海岸域におけるマイクロプラスチックに係る調査研究の結果を含む、SDGsのカードゲーム」というタイトルで調査研究及び英語で製作した「かるた」についての発表を行い、各国の参加者から好評を博した。 国際舞台での研究、発表という課題に果敢にチャレンジし、帰国後も地域行事等に積極的に協力している。
51		個人	つじ あさ 辻 愛咲 ニナ	3	
52		個人	やまかわ あやね 山川 彩音	1	
53	平塚工科高等学校	団体	化学部	2	地区の地域教育力ネットワーク協議会主催「楽しい科学教室」に参加し、子どもたちと液体窒素を用いた実験を行うなど、地域との交流を深めるとともに地域の教育活動へ貢献した。 人数が2年生3名と少ない中、積極的に活動を行い、学んだことを地域へ発信する姿勢は、他の生徒の模範となった。
54		個人	こいた まさのり 小坂 昌功	2	日々の学習の成果を発揮し、「ものづくりコンテスト神奈川大会化学分析部門」で優勝した。その後、関東大会へ出場し、連日繰り返し練習に励んだ結果、初出場にも関わらず奨励賞を受賞した。 自らの技術を向上させようとする姿勢は、他の生徒の模範となった。
55		個人	ちば かいき 千葉 海輝	3	チームのリーダーとして「ものづくりコンテスト神奈川大会電気工事部門」に出場し、他の生徒を引っ張りながらトレーニングを重ね、見事優勝した。 また、第18回関東甲信越地区電気工事コンテスト（関東大会）では、結果は入賞外となったが、大会に向けて繰り返し練習を行い、さらなる技術力・競技力の向上に励む姿は、他の生徒の模範となった。
56		団体	電気部	-	日頃のロボット製作等の活動を元に、各種競技大会やコンテストに出場するなど、個々やチームとしてのスキルを上げた。 また、「青少年のための科学の祭典」、「伊勢原子ども科学館科学工作教室」などに出席して、小中学生を対象にした科学体験に取り組み、ものづくりの楽しさや科学への関心を高める活動を積極的に行っている。これらの活動は社会への貢献度が高く、他の部活動の模範となった。
57		団体	音楽部	-	日頃より熱心に練習を重ねている実績が評価され、平塚市教育委員会が主催する「平塚市緑化まつり」にPA（音響）担当として参加した。 また、他のイベントにも音響部門として参加しており、参加者や主催者側に喜んでいただくなど、地域の活性化に貢献した。
58	大船高等学校	団体	合唱部	-	定期的に数か所の老人施設を訪問し、合唱を楽しんでいただくとともに利用者との交流を大切に活動した。聴いている人に楽しんでいただけるプログラムを工夫して考え、休憩時間にも積極的にお話に行くなど交流を深めている。 合唱を通じて他者と積極的に関わろうとする姿勢や、協力して地道な努力を重ねて活動する姿は、他の生徒の模範となった。
59	藤沢総合高等学校	団体	ボランティア部	-	地域でのボランティアを中心として活動し、地元で開催されるお祭りや特別養護老人ホームでのフェスティバルなどに積極的に参加した。 部員は10名とそれほど多くはないが、部員同士の連携が強く、常に仲間同士で協力して活動を行っている。このような活動は、地域の活性化に貢献するとともに、他の生徒の模範となった。
60	湘南台高等学校	団体	男子サッカー部	-	部の活動を行いながら、週に2回、早朝から元気な挨拶とともに学校周辺の清掃活動を行い、地域の環境美化に貢献している。 また、知的障がい者のサッカーチームとの練習試合を企画するなど、平素よりインクルーシブの視点で活動を行っている。 これらの活動を通じて周囲に貢献する姿勢は、他の生徒の模範となった。
61	小田原東高等学校	団体	放送部	-	校内のイベントや学校説明会のみならず、外部団体主催の各種講演会などでも司会業務を行い、日頃の練習の成果を発揮した。イベントでは司会業務に誠心誠意をもって取り組み、参加した方からは好評をいただいた。 事前練習をしっかりと行い、学校代表としての意識をもって司会業務を行う姿勢は、他の生徒の模範となった。
62	鶴嶺高等学校	団体	JRC部	-	学校創立後間もない頃から約40年に渡り、近隣の福祉施設を定期的に訪問し、利用者の方々と一緒に歌を歌ったり、軽い運動をするお手伝いをしたりして交流を深めている。また、地域のイベントにボランティアとして参加して清掃活動を行うなど、地域の美化にも貢献している。 日常生活においても、学習活動に真摯な態度で臨んでおり、主体的にボランティア活動を行う姿勢は、他の生徒の模範となった。
63	上溝高等学校	個人	いまむら いっぽ 今村 一步	1	エアロビックのクラブチームに所属し、練習に励んできた。競技の国内最高峰である「スズキジャパンカップ2019 第36回全日本総合エアロビック選手権大会全国大会」ユース2男子シングル部門において、2年連続優勝を果たし、令和2年4月に行われる世界大会に日本代表として出場が決まっている。 放課後のクラブチームでの練習を欠かさず行うとともに、日常生活においても授業や学校行事に積極的に取り組むなど、他の生徒の模範となった。

令和元年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学 校 名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
64	神奈川県総合産業高等学校	団体	生徒会本部	-	地域の方々と連携して美化活動を行うなど、地域貢献活動に意欲的に取り組んだ。また、全校生徒の代表として、生徒の意見収集のために意見箱を設置し、そこで挙がった生徒の意見を学校行事に積極的に取り入れるなど、各種学校行事を全校生徒の先頭に立って運営する姿は、他の生徒の模範となった。
65	相模原高等学校	団体	県相国際交流クラブ (K I C)	-	文化、価値観の多様性の理解や、英語を活用したコミュニケーション能力の向上に向けて、学校内外での国際交流イベントなどに参加した。 また、令和元年度P D A神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会では、日頃の練習の成果を発揮してチーム成績1位となり、全国大会の出場が決まるなど、全校生徒が「国際理解」への関心を強めることへ大きく貢献した。
66	秦野高等学校	個人	あじおか いっほ 鱒岡 一步	2	弓道部男子部員7名が、下校中に年配の男性が頭部から血を流して倒れているのを発見し、タオルなどで止血を行うなど手当を行った。 降雨の中、濡れないように自分達が着ている服を怪我人に掛け、近隣住民へ救急車を呼ぶよう依頼するなど人命救助を行った。
67		個人	おおつ かざと 大津 風人	2	
68		個人	こせ ゆうや 小瀬 雄也	2	
69		個人	つゆき かんた 露木 寛太	2	
70		個人	なかやま りょうた 中山 稜太	2	
71		個人	まるやま はるき 丸山 晴己	2	
72		個人	みね こうたろう 嶺 孝太郎	2	
73	秦野曾屋高等学校	個人	しむら みるか 志村 実瑠香	3	礼儀正しく、常に周囲へ気を配って行動しており、所属していた軽音楽部では、部のメンバーと最後の大会に向けて作曲、演奏を行うなど一生懸命取り組み、授業や様々な活動を楽しめる環境を作った。 また、引退後も後輩の指導に熱心に取り組むなど、自分のことだけではなく常に全体のことを考え行動する姿は、他の生徒の模範となった。
74		団体	吹奏楽部	-	地域のイベントへ積極的に参加するほか、市内外のコンクールなどにおいて裏方として活動し、演奏会の運営を円滑にするなど地域社会へ貢献した。 部員全員が礼儀正しく、部活動と勉強の両立に向けて努力する姿は、他の生徒の模範となった。
75	厚木商業高等学校	団体	チャレンジショップ委員会	-	地元のパン工房と協働してオリジナル商品の開発を行い、地域の活性化を目的として、定期的に近隣の商業施設や学校などで販売した。 また、東日本大震災や熊本地震などで被災した生産者の商品も合わせて販売するなど、地域との交流や復興支援を積極的に行う姿は、他の生徒の模範となった。
76	伊志田高等学校	個人	むらやま あやな 村山 綾菜	2	令和元年8月に開催されたT I C A D 7 (第7回アフリカ開発会議)に参加し、留学生、外国籍の生徒や特別支援学校の生徒との関わりについて考え、みながお互いの良さを認め合い、それを生かしていくという、「ともに生きる」の一歩となるような「Encounter Week」を英語で提案した。 また、「かながわハイスクール議会」や「全国高校生未来会議」に参加し、高校生の目線から提言をまとめた。学業においてもひたむきな姿勢で取り組んでおり、他の生徒の模範となった。
77	中央農業高等学校	団体	フラワーデザイン部	-	座間市青少年センターにおいて、講師となって小学生低学年対象のフラワーアレンジメント教室を開催したり、近隣の小学校で、高校で育てた草花や海老名市内の花を使用した花育活動を行うなど、地域活動に積極的に貢献した。 花を通して地域の活性化に努める姿勢は、他の生徒の模範となった。
78	座間総合高等学校	団体	生徒会 執行部	-	座間市社会福祉協議会の行事や地域のコミュニティセンターの行事、立野台小学校「放課後子ども教室」などに積極的に参加し、地域社会へ貢献した。 これらの活動に、生徒会だけでなく一般の生徒とともに参加することにより、他の部活動のボランティア活動への参加にも繋がった。
79	相模原中等教育学校	個人	おづか まつよし 尾塚 松寿	6	生徒会長を務め、様々な場面で他生徒と協力して、多岐にわたる学校生活を充実させるため一所懸命活動した。また、硬式テニス部では、副部長として部長と協力して部員たちをよくまとめた。 学業にも意欲的に取り組んでおり、生徒間での信頼は厚く、多方面での活動に全力かつ真剣に向き合いやり遂げるその姿は、他の生徒の模範となった。
80	平塚盲学校	団体	小学部児童	-	点字ブロックの理解・啓発と視覚障害者のホームからの転落事故を防止する「点字ブロックキャンペーン」の一環として、小学部児童が駅の構内放送のアナウンス制作・録音を担当し、駅利用者の理解・協力を求める呼びかけを行った。 児童の元気な呼びかけに耳を傾ける駅利用者も多く、子どもたちの声を聞いた方々が思いを新たにするなど、効果を生んだ。
81	鶴見養護学校	団体	岸根分教室サービス班	-	キャリア教育の一環として、5年前からコーヒーの喫茶業務を行っており、岸根高校職員室などへの出張販売やイベントへの出店を行っている。 利用者から、コーヒーの味に加え接客などが好評を得ており、特に今年度の岸根高校文化祭の出店には、延べ350人の方が訪れた。 これらの取組を通して、生徒の自己有用感や自己肯定感が高まり、社会参加に向けての大きな自信と意欲に繋がった。

令和元年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学 校 名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
82	保土ヶ谷養護学校	個人	はやかわ しんや 早川 慎矢	2	県教育委員会主催の「かながわ人づくりコラボ2019」に学校代表として登壇し、学校のバラスポーツの取組に対する自分の意見を発表し、好評を得た。 日頃から、生徒会役員として学習発表会の運営や学校行事などで中心となって活躍するほか、清掃技能検定にも積極的に参加し、自在ぼうきの部で2級に合格するなど、就労に向けて他の生徒の模範となった。
83	岩戸養護学校	団体	高等部3年 教育課程Ⅱ (自立支援コース)	-	1、2年次は校内での清掃活動や高齢者施設での歌の披露やトーンチャイムの演奏を行い、3年次は、神奈川県立保健福祉大学で実施された横須賀中央ライオンズクラブの献血活動にボランティアとして参加するなど、社会貢献活動についての実践を積み重ねた。 これらの活動を通して、社会の一員としての意識を高めるとともに、共生社会の実現に貢献した。